# ウメ輪紋ウイルス（plum pox virus）とは

## １．特徴

モモ、スモモなどの*Prunus*属の植物に広く感染する重要な植物ウイルスであり、1915年にブルガリアで発見されて以来、欧州、アジア、北米、南米等でも確認されている。

これまでウメへの自然感染の報告はなかったが、2009年に東京都青梅市で初めて確認された。

## ２．感染経路

アブラムシにより媒介されるほか、穂木や苗を経由して感染する。生果実は感染経路にはならないとされている。

また、感染から発症まで3年間程度の潜伏期間がある。

## ３．症状・被害

モモやスモモでは、葉に退緑斑点や輪紋が生じるほか、果実の表面に斑紋が現れ、商品価値が失われたり、成熟前の落果により減収するとの報告がある。また、PPVはヒトや動物に感染しないため、罹病果実を食べても健康に影響はない。

ウメでは、葉に退緑斑点や輪紋が生じるほか、花弁にブレーキング症状（斑入り症状）が現れることもある。なお、これまでのところ果実への顕著な症状は見られていない。

## ４．防除方法

アブラムシの防除の徹底、感染樹の除去、無病健全な苗の使用。

## ５．宿主植物

サクラ節を除く*Prunus*属の果樹（モモ、スモモ、ネクタリン、アンズ、オウトウなど）、セイヨウマユミ、ナガバクコ、ヨウシュイボタなど

## ６．主な発生国

ア　ジ　ア：中国、イラン、インド、トルコなど
ヨーロッパ：ブルガリア、ベルギー、フランス、イタリアなど
ア フ リ カ：エジプト
北アメリカ：米国、カナダ
南アメリカ：アルゼンチン、チリ

ウメの葉の症状

ウメの花弁の症状